

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 Sing Out Asia

代表者・役職名 氏名 波多野三郎 代表理事

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

クロスカルチャー・トレーニング・ファシリテーター養成合宿

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1974年からアジアの若者との交流を促す活動を行ってきましたが、2007年に法人化しました。以来、クロスカルチャー・トレーニング(CCT)・キャンプやアカペラ合宿などを定期的実施し、アジアの若者の交流を進めています。会員数は約300名です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

日本、タイ、ベトナム、インドネシアでSOAの活動の指導的役割を担っている若者に、CCTのファシリテーター(リーダー)としての能力を身に付けさせるための合宿を行います。この養成合宿の修了者は、各国での活動をさらに推進していくことが期待されています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

ベトナム、タイ、インドネシアから若者10名を東京に招へいし、日本の若者22名が加わり、CCTのファシリテーターの訓練を行ないました。2日間CCTの目的、理念から実際のファシリテーションの方法を学ぶワークショップを行ない、3日目に国立オリンピック記念青少年総合センターで、留学生・日本人大学生・若者32名をあつめて、新たなファシリテーターたちがCCTプログラムを実際に行ないました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

今まで、CCT参加メンバーの交流は、同じ年にCCTに参加した仲間同士の交流に留まり、世代間の交流は希薄でした。しかし今後は、養成合宿に参加した20名が各国でリーダー的役割を担い、世代を超えたメンバーの交流が促進されることが期待されます。また、SOAの活動を社会に広げていくことも期待されます。例えば、インドネシアのSOAメンバーは、イスラム教の断食月に、大学生と貧困地域の子供たちと交流するイベントを実施しました。また、タイのチェンマイでは、メンバーが経営するカフェの2階のスペースを、若者の文化イベントを開催する場として開放する試みが始まっています。これらの活動を、養成合宿で強化されたネットワークを通じて、SOA全体で支援していきたいと思ひます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今後は、CCTのファシリテーション技能を生かして、SOAの活動を各国で広げていけるよう、メンバー相互の協力関係を強化していきたいと思ひます。そのために、今後も継続してリーダーを養成し、SOAメンバーの世代を超えた交流を促し、メンバーが積極的に社会活動に関わっていけるような環境づくりを、SOA全体の活動として後押ししていく必要があります。各国のSOA組織が抱えている課題を共有し、解決策を考えるような仕組み作りも重要です。SOAが今まで築いてきたメンバー間のネットワークと、リーダーシップのノウハウを、具体的な形で社会で生かしていく取り組みを続けていきたいと思ひます。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

